



彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク  
**あったかウェルねっとニュース 第38号**

2022年4月14日発行

ホームページアドレス <http://attaka2018.starfree.jp/>

2011年3月11日の東日本大震災より12年目になりました。失われた多くの尊い命のご冥福を祈り続けるとともに、一日も早い被災地の復興・復旧を願い、被災された皆様の安心安全を心よりお祈り申し上げます。

あったかウェルねっとの「ウェル(WELL)」は、Welfare(福祉)、Well-Being(幸福)のWell(大切にという意味)で、「温かな心で一人ひとりを大切に思うつながり」でありたい、との願いが込められています。

### 2022年度もよろしくお祈りします

あったかウェルねっとは、平成13年(2001年)に設立され、教員、社会福祉協議会職員、ボランティア、障害を持った人など、様々な会員が職業・立場や地域を超え、“福祉の心”の育成のために埼玉県域で幅広い活動をしてきました。

続くコロナ禍や度重なる災害、戦渦の状況に胸が締め付けられる日々ですが、2022年度も、福祉教育・ボランティア学習推進の活動を通じて、それぞれの場所で、誰もがふつうのくらしのしあわせ(ふ・く・し)を感じることが出来る社会となるよう、学び合いや交流、発信を重ねていきましょう。今年度もよろしくお祈りします。

## お知らせ 総会・研修会

2022年度あったかウェルねっと総会及び合同研修会をオンラインで行ないます。

\*コロナ感染状況により変更もあります。

### 2022年度ねっと総会

日時：2022年5月14日(土)

方法：Zoomによるオンライン

インターネット環境が無いなどオンライン参加が難しい方はご相談ください。

開始：9時30分 議事終了：10時10分(予定)  
 対象：正会員・賛助会員及び会員を希望する方  
 年会費：正会員 1,000円  
 賛助会員 1口：500円

事前の申込みをお願いします。

ねっと総会の申し込みは、ねっと事務局へ。

氏名・連絡先・市町村・所属を明記の上メールでお知らせください。

申込み締め切り：5月2日(月)

申込先：ねっと事務局(須田)

メールアドレス：[attakawelnet@gmail.com](mailto:attakawelnet@gmail.com)

ファクスの場合は049-283-1865(FAX用)へ

～\*～\*～

総会終了後に、2022(令和4)年度研修会を埼玉県社協と合同開催で行ないます。

### 2022年度ねっと研修会(県社協と合同研修)

これからの福祉教育をみんなで考えよう!

地域がつながり広げる福祉教育

あったかウェルねっと

埼玉県社協地域福祉推進プラットフォーム

合同研修

日時：2022年(令和4年)5月14日(土)

11時00分～16時00分

会場：Zoomによるオンライン

講師：原田 正樹氏(日本福祉大学/日本福祉教育・ボランティア学習学会会長)

佐藤 陽氏(十文字学園女子大学/日本福祉教育・ボランティア学習学会埼玉大会実行委員長)

熊井 英朗氏(埼玉県社協地域福祉部長)

## 開催趣旨

コロナ禍の影響が長期になった2022年は、暮らしのあらゆる側面に影響が及びます。埼玉県では今、2025年の超少子高齢社会問題を抱えた転換期が直近となりました。これからの「地域の福祉文化」醸成に向けて、「共に学び、共に生きる」「福祉教育・ボランティア学習」推進には、更に多様な連携が求められています。

この事業では、様々な立場の人たちが出会い、2025年に向けて、福祉教育・ボランティア学習の視点から、だれもが地域で幸せに暮らすには何が必要で、何ができるかを学び合い、「豊かな心」「共に生きる力」を育む実践になげ、みんなで「ふくしの輪」を広げていけるよう、埼玉県社会福祉協議会とあったかウェルねっとが合同で開催します。

主催：あったかウェルねっと・埼玉県社協

参加費：無料

内容：対談、基調講演・説明、グループワーク、オンラインラウンドテーブル

\*詳細については、別紙チラシに記載。

申込先：埼玉県社協（担当：小林）



申込みQRコード→

<https://ws.formzu.net/fgen/S14694472/>

申し込みは5月2日（月）迄にお願いします。

※オンライン参加の方には前日までにURLをお送りします。

※ねっと会員・賛助会員で、オンライン参加が難しい方は、ねっと事務局須田（080-8122-4496）までお問合せください。

☆【注】新型コロナウイルス感染拡大状況によりプログラム等の変更が生じる場合があります。

## 報告 学会第27回埼玉大会

2021年11月27日、28日に日本福祉教育・ボランティア学習学会第27回埼玉大会が、学会員対象にオンラインでおこなわれ、あったかウェルねっとはこの学術大会実行委員会に参加し、学会理事の諸先生方のご指導を仰ぎ、シンポジウムに加え、

特別課題別研究①②の埼玉企画などに参画した。

### 日本福祉教育・ボランティア学習学会 第27回埼玉大会〈報告その2〉

埼玉大会大会長/あったかウェルねっと代表  
横田八枝子

前号（会報37号）に続いて、埼玉大会テーマ「多様な立場の市民が創る、ふくし・共生の文化～お互いにエンパワメントしあう福祉教育・ボランティア学習の可能性～」報告その2をお届けします。

#### 【特別課題別研究①】

埼玉発！コロナ禍における社会福祉施設での福祉教育の展開

#### 研究概要より

地域福祉を推進するための福祉教育実践が社会福祉協議会だけではなく、学校や施設など様々な主体が協同して実践している。特に、福祉教育実践の中心的な担い手として、長年、社会福祉協議会と共に福祉教育を推進してきた社会福祉施設の実践にスポットをあて、社会福祉施設として、地域の学び合い、地域の関係性の構築に対して、どのような活動を展開したのかを、またコロナ禍でも工夫し、深めている福祉教育実践についても報告。

さらに、この研究では、今後の社会福祉施設における福祉教育・ボランティア学習の展開も探る。

#### 趣旨説明 コーディネーター：牧野 郁子氏より

「若者への福祉教育研究会」は、埼玉県内の福祉教育実践について、さまざまな実践プログラムが見える化してきた。特に、社会福祉施設の福祉教育実践プログラムについて、埼玉県内の社会福祉施設へのアンケート調査を行い、その結果とともに報告書を作成した。

また、今年度は、オンライン研究会を通して、様々な社会福祉施設の福祉教育実践研究会を積み重ねてきた。その実践から、コロナ禍でも取り組んできた福祉教育実践について、共有し、社会福祉施設の福祉教育の在り方について

て、確認する。

**実践報告より**

① コロナ禍における学校と施設の交流事業～  
社会福祉施設が主体となって福祉教育に取り  
組む交流の意義～

嶋野 博之 氏 (特別養護老人ホームみどりの  
風鶴ヶ島)

黒沢 賢治 氏 (鶴ヶ島市立鶴ヶ島第二小学校)

社会福祉施設が、高齢者理解、交流、社会福祉施設の役割等、学校と連携し、福祉教育実践を主体的に行っている。事前学習や事後のリフレクションについても、施設職員が調整も含めて担っている。また、コロナ禍における交流の工夫についても報告いただく。直接、高齢者を介護している立場ならでは、新たな気づきが生まれる福祉教育実践について確認する。

☞交流から、子どもたちと入居者にとって新たな気づきが生まれる。

☞入居者の主体的な参加により入居者にとっての社会貢献や社会交流の場に。

☞子どもたちは、自分が人を幸せにする力を自分が持っていることに気付けた。職員にとってもやりがいがあり、職員も内部指導力のアップに結び付いている。

② 「福祉の心を育む交流事業」を通して、築く社協と施設の連携協同

萩原 祐輔 氏 (深谷市社会福祉協議会)

土居 敦志 氏 (特別養護老人ホームひびき)

2013年から、社会福祉協議会が、市内の社会福祉施設に「福祉の心を育む交流事業」の参加を呼びかけ、学校と社会福祉施設の交流の仕組みを組織的につくってきた。社協では、市内の全小中学校・全施設との「福祉の心を育む懇話会」を設置し、展開方策や学校教育における福祉教育の充実について検討しながら、連携している。この事業をとおして、学校と社会福祉施設の交流とそれぞれの立場からの、福祉教育・ボランティア学習を推進する仕組みについて、さらには、コロナ禍において実施した交流内容についても報告された。

☞今まで交流のなかった学校と施設が結びつく

きっかけにもなり、施設と学校がより身近な存在となった。

☞コロナウイルスの影響で行動制限される中、自分たちに何が出来るか考える良いきっかけとなった。

☞交流でお互いが思い合う大切さを知った。

③ 「地域とつながる活動を創る」地域づくりのあり方～地域の中の居場所づくり、仕事づくり、つながりづくりの実践～

大澤 美紀 氏 (公益社団法人やどかりの里)

2008年より、精神保健福祉の分野に足場をおいて当事者への支援を行ってきた。それだけではなく、彼らが暮らす地域をどうつくっていくかという視点で地域に必要とされる事業を展開している。また、新たな取り組みとして地域の様々な団体や企業の方、PTAや子育てグループの人たちと地域の居場所づくりを始めている。地域づくりの中心として、社会福祉施設の福祉教育的機能について報告。

☞主な活動は、相談支援・生活支援・労働支援・セルフヘルプネット等。

**まとめ** コメンテーター：菱沼 幹男 氏

(日本社会事業大学) より

社会福祉施設における福祉教育実践には、

- ① 地域性 (同じ地域で生活する人々の関わり)
  - ② 継続性 (単発で終わらない学習と交流)
  - ③ 身体性 (相手の息づかい、反応を肌で感じる)
  - ④ 空間性 (同じ空間で共に時間を過ごす)
  - ⑤ 省察性 (経験からどうしたらよいかを考える)
  - ⑥ 貢献性 (喜んでもらえる喜びを感じる)
  - ⑦ 共同性 (施設、学校、社協で考える)
  - ⑧ 主体性 (施設利用者も地域住民も主体者)
  - ⑨ 個別性 (〇〇さんには、どう接するか)
  - ⑩ 思伝性 (相手へのメッセージを送る)
  - ⑪ 発信性 (多様な人の生き方を伝える)
- 等々、大切な視点が沢山ある。

**【特別課題別研究②】**

埼玉発！多様性を受け入れる地域づくりのために～すべての社協活動の基礎にある福祉教育・ボランティア学習の機能を問う～

**研究概要より**

地域共生社会の実現に向けた包括支援体制の構築が各地で進められ、「地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会」とされた。その実現に福祉教育・ボランティア学習の考えがあると捉える。その一方で県内社協の福祉教育・ボランティア学習の実態をみると、疑似体験など学校で実施されるものが福祉教育と認識されやすく、県社協自体もここ数年は一事業としての福祉教育を実施している状況にあった。そのため、過去に県社協が取り組んできた福祉教育を振り返り、「すべての社協活動の基礎として福祉教育・ボランティア学習の機能がある」ことを再認識し、「埼玉らしい福祉教育の推進」を目指す。

この課題別研究では、今後さらに誰も排除しない地域づくり、包括的支援体制づくりなどに、多様な人々とともに社協が取り組んでいく上で、社協として福祉教育の機能をどう活かし、社協組織・職員、関係者がどう変化したかなど、社協活動の根底にある福祉教育・ボランティア学習の機能と学び合いのプラットフォームについて考える。

**趣旨説明・進行** コーディネーター：石山 英雄氏  
(埼玉県社協 次長)

**実践報告より**

① 「社協がつながり広げる福祉教育～埼玉らしい福祉教育の推進～」  
塚原 雅代 氏 (埼玉県社協 地域活動支援課長)

県社協では2000年より11年間実施した福祉教育・ボランティア学習推進員養成研修以降、福祉の心を育む交流事業や福祉図書デリバリー事業等による福祉教育を推進してきたが、市町村社協調査では「半数の社協が担い手不足」「3割の社協が組織内連携無し」という課題が明らかになる。そのため、あらためて課題意識を持ち、社協を軸とした埼玉らしい福祉教育の推進に向け、昨年度から市町村社協・市民団体をメンバーに意見交換会(現連絡会)を立ち上げ、オール社協で創る“地域福祉推進プラットフォーム”に取り組んでいる。

② 「地域とつながるふくし学習～CSWとの連携・協働～」

栗原 恵美 氏 (所沢市社協地域福祉推進課)

“ふだんのくらしのしあわせ”を伝え、ともに学びあう関係性を目指す「ふくし学習」。その実践においては、住民とのつながりや地域の社会資源を把握しているCSWが必ず関わっている。

CSWのコーディネートによって、体験型の学習から地域の実情に合わせたプログラムを組み立て、「ともに生きるふくし学習」が実践でき、この地域共生社会の実現に向けた取り組みが、地域の方々にとっても学習の機会や活動のモチベーションにつながるなどの効果が得られている。

☞地域子どもたちを、地域みんなで育てていきたい！

③ 「福祉教育からはじまる社協内連携の取り組み」

牧野 郁子 氏 (鶴ヶ島市社協 地域福祉担当)

当会では、様々な地域のボランティア・市民活動団体、当事者、社会福祉関係職員等と福祉教育・ボランティア学習を展開してきた。多様なプログラムの中で、ボランティア・まちづくりセンターや小地域組織化事業(地域支え合い協議会)のみならず、生活支援体制整備事業(生活支援コーディネーター)、総務部門(赤い羽根共同募金)や障害者相談支援事業との連携等、分野、種別、職種を超えて、学校、子ども若者への福祉教育を展開している。そして、社協内の様々な部署が「福祉教育」を意識しながら、地域づくりを進めている。

☞多様な主体への働きかけ《個別⇄地域⇄社協の往還》

④ 「地域を超えた“自分らしく生きる”福祉教育の推進」比企地域4社協(ふくふく木曜会)

平野 早恵 氏 (嵐山町社協)

一場 千尋 氏 (吉見町社協)

関本 菊恵 氏 (滑川町社協)

紫村 元尚 氏 (東松山市社協)

県社協での福祉教育・ボランティア学習推進員養成研修の受講をきっかけに、近隣市町村社協がつながり、“ふくふく木曜会”を発足して20年。強みは、4市町村社協が連携し地域資源を共有した学び合い。単一では難しいことも、プログラムの共有や協同実践により、幅広い視点で奥深い

福祉教育実践が可能となっている。

そして定例会自体が学び合いの場であり、メンバーの多様性を認め合う“小さな共生社会”となっている。地域の中で“ともに生きる力”を育む福祉教育を継続している。

☞一人一人の自己肯定感や社会的有用感などを意識して推進！

**まとめ** コメンテーター：

佐藤 陽 氏 (十文字学園女子大学)

諏訪 徹 氏 (日本大学)

中島 修 氏 (文京学院大学)

コメントより

- ① 福祉教育・ボランティア学習機能である“気づき”と“学び”が、すべての社協活動、地域福祉推進と関係し、社協の基盤になっている。
- ② 地域の特色を出した実践報告からは、社協の地域愛と福祉教育への熱い思いが伝わった。
- ③ 多様な主体による協働実践の創出には、社協を軸としたプラットフォームが求められる。

**研究メンバー**

埼玉県社協及び福祉教育推進員連絡会

## 第27回埼玉大会で自由研究発表〈報告その3〉

### ねっと会員も多数発表

埼玉大会実行委員会/あったかウェルねっと  
事務局長 須田正子

この学会で、「コロナ禍における新しいつながりが生み出すもの～互いにエンパワメントしあうオンライン高齢者サロンと福祉教育との接点～」(横田八枝子ねっと代表と共同研究)の研究発表をしました。地域で重ねてきた活動を福祉教育の視点で学び直すことができ、コロナ禍でも歩み続けていくことの意義を再確認することができました。

学会員であるねっと会員の発表が多数ありました。その一部を紹介します。

**紹介** 2日目 学会員の自由研究発表より抜粋

・テーマ「見えなくても、いつでもどこでも、誰とでもふれ合えて、つながることができる社会に」吉田より子氏(嵐山町)

・テーマ「小学生における発達障害がもたらす心境の変化」桜井栄里氏(東松山市)  
他にも多数の学会員から研究発表がありました。

## 報告 まなひぼしゃべりカフェ

2021年度冬カフェ(第3弾)

ねっと設立から20年!

～福祉教育実践で大切にしてきたこと(その2)～

日時:2022年3月18日(金曜)14時～15時30分

話題提供者 木野ゆずきねっと副代表

須田正子同事務局長



前回(1月29日)の冬カフェ「福祉教育実践で大切に

してきたこと」では、横田ねっと代表、坪井ねっと相談役の対談形式で、設立からの活動を振り返りました。

今回の「その2」では、埼玉県内で講師として招かれた福祉教育研修のうち、いくつかの実践プログラムを紹介しながら実践を振り返りました。

講師役を担うということは自分自身の学びとなり「・ボランティア学習」に通じること。講義を聴く・発表する等より、グループ討議→体験学習→誰かに教える事がより学習効果が高い等(学習効果のピラミッドより)のサービスラーニングの視点に思いが及びました。

木野氏による小中学校での地域実践例では、「ひとり一人が導き出すプログラム」「誰にも出番がある」「実践の中で得られるもの」というキーワードがあり、参加する推進員たちがその人らしい暮らしの中から福祉教育を捉えていることを知る等、「違いを大切に」「豊かな福祉観」を伝えようとするプログラム実践を学び合いました。(12名参加)

## 報告 福祉教育連絡会に参加

あったかウェルねっと事務局長 須田正子

埼玉県社会福祉協議会「福祉教育推進員連絡会」に参加しています。全国福祉教育推進員研

修を終了した埼玉県内の市町村社協職員の方々と一緒に連絡会の一員として加わり、地域福祉推進プラットフォーム事業に参画しています。

2021年度は、福祉教育・社協と学校・多文化共生など様々な視点で、プラットフォーム事業を3回おこないました。市町村社協職員はじめ、県内の様々な方々と学び合う機会をいただきました。

## 県社協からの情報

### ともに生きることの大切さを伝えるリーフレットを作成

埼玉県社協では、このたび、「ともに生きる『ふくし』について」リーフレットを作成しました。

「福祉教育推進員連絡会（メンバー：10 市町の社協職員とあったかウエルねっと 須田事務局長）」で話し合いを行い、「福祉は特別な誰かのためのものではなく、誰にとっても関係があるものとして考えてもらうためには、何を、どのように伝えたらよいのか」等熱い意見を交わしながら作成しました。

このリーフレットは、学校や地域において福祉教育を展開する時、プログラムの導入や社協職員の講話等で活用していきます。



リーフレット表紙

後日、ホームページにも掲載予定ですので、ぜひご覧ください。

### 学校・地域が連携した福祉教育推進を図る ～福祉教育推進者研修～

例年、彩の国すこやかプラザで実施していた「福祉教育推進者研修」は、コロナ禍の状況を踏まえ、初の試みとして動画配信による研修を行っています。

今回は特に、「総合的な学習の時間に『ふくし』を取り入れる時に役立つコトを伝えます」と題し、吉見町社協からは学年ごとにプログラムを組み立てている小学校の取り組みを、所沢市社協からは「たすけあいゲーム」を使った中学校の取り組みを紹介していただいています。

ぜひ、他の取組事例をご覧ください、皆様の実践にお役立ていただきたいと思います。

なお、この研修動画は小中学校の先生方にも多く視聴いただけるよう 8 月 31 日まで配信しています。

## 事務局情報

### 会費振込先のお知らせ

ねっと活動は会費(年 1000 円、賛助会員一口 500 円)で運営しています。会費納入方法は原則として口座振り込みとなりました。振込手数料についてはご負担をお願いいたします。

振込先：埼玉りそな銀行武蔵浦和支店

普通預金口座番号：5015782

名義：彩の国福祉教育ボランティア学習推進員ネットワーク

### メーリングリストの登録

会員・賛助会員の方にメーリングリスト(ML)で情報をお届けしています。登録アドレスの申し込みや変更がありましたら事務局までお知らせください。ML登録は事務局で行ないます。事務局アドレス：[attakawelnet@gmail.com](mailto:attakawelnet@gmail.com)

### 編集後記

日本の春を彩る桜！今春は気温の低い時期と重なり、開花期間が長かったようです。ハラハラと散り急ぐ花びらを浴びながら、春を満喫した方も多いのではないのでしょうか。

コロナ禍で集う機会が少なくなりましたが、散歩や体操で身体を動かす、小人数でマスク着用の交流、LINE や電話の活用など、健やかに暮らせる工夫をしたいものです。

なお、若者への福祉教育研究会コーナーは紙面の都合上、お休みとさせていただきました。

発行：彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員  
ネットワーク(通称:あったかウエルねっと)

編集：あったかウエルねっと(情報担当)

連絡先：埼玉県社会福祉協議会地域活動支援課

TEL : 048-822-1435 FAX : 048-822-3078

Mail : [vc@fukushi-saitama.or.jp](mailto:vc@fukushi-saitama.or.jp)